

みんなで遊べる公園をめざして

日野中央公園ワークショップだより Vol.2

令和5年8月 日野市緑と清流課

日野中央公園のインクルーシブ遊具とバリアフリー化の工事が完了しました！

令和5年5月15日(月)に日野中央公園内にインクルーシブ遊具広場がオープンしました。

遊具広場の整備工事とあわせて、園路舗装の凸凹の解消や水飲み器をユニバーサルデザインタイプのものに交換するなど、バリアフリー化工事も行いました。



インクルーシブ遊具の紹介

ブランコ(写真奥)

- ・チェアタイプ
小さな子ども向け
- ・円盤タイプ
寝たままや何人かで乗ることができます。
(1~3人 200kgまで)
自分で身体を支えられない子にも。

複合遊具(写真手前)

- ・一緒にすべることができる幅広のすべり台
体を支えながら、ふたりですべることができます。
- ・登らなくても遊べるパネル
- ・ちょっとしたアスレチック

遊具のまわりはゴムチップ舗装になっています。

ワークショップ開催の目的

整備をするにあたって、どんな人でも使いやすい公園づくりのため、いろいろな方のご意見を伺いながら公園の整備内容を考えていくために「だれもが遊べる児童遊具ワークショップ」を開催しました。

計 6 回のワークショップを行い、日野中央公園の整備が完了しましたのでお知らせします。

ワークショップ参加団体

日野市立小中学校 PTA 協議会

公立保育園園長会

民間保育園園長会

民間幼稚園園長会

東京都立七生特別支援学校

東京都七生福祉園

東京都立八王子東特別支援学校

発達・教育支援センター エール

ぞうさんの会

計 9 団体

日野市

緑と清流課

都市計画課

いままでのワークショップの開催結果

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1回目	2回目	3回目				整備工事	
					←		4回目

4月	5月	6月	7月
整備工事	遊具広場 オープン 5回目		6回目

第 1 回目～第 3 回目のワークショップの結果については、「日野中央公園ワークショップだより VOL.1」にて紹介していますので、4 ページ目の二次元コードもしくは日野市 HP よりご覧ください。

4 回目…参加者:5 団体 7 名

整備工事途中の公園で、遊具などの設置予定位置を現地で確認しました。

5 回目…参加者:6 団体 11 名

整備工事完了直後の日野中央公園の確認をしました。

整備後の状態を見ることで、見えてきた改善点などの意見交換を行いました。



6 回目…参加者:5 団体 8 名

第 5 回目は工事完了直後のワークショップだったため、整備完了から 1 ヶ月あまりが経過し、実際に使用してみても気が付いた点などについて意見交換を行いました。

主なご意見		回答
トイレの整備について、今後も予算要求をしてぜひとも整備してもらいたい。	→	緑と清流課としても整備が必要と考えているので、引き続き予算の確保につとめます。
危ないブランコの乗り方を見かけた。「〇〇禁止」ではなく本来の目的や使い方を伝えてほしい。	→	今のところは、人数と耐荷重を示した看板以外を出す予定はありません。危ない乗り方を発見した際は注意喚起をします。
ブランコの入口と出口がわかりづらい。	→	足跡マークをつけるなど、わかりやすく表示できるように検討しています。
自転車置き場が決まっていないので自転車で遊具の近くまで来ていて危ない。通行しづらい時がある。	→	駐輪スペースを試験的に設置するなど、検討していきます。
事故が起きて、せっかくの遊具がなくなってしまうような点検を行ってほしい。	→	使用頻度が高いと不具合も起きやすいため、日野中央公園は当面は月1回の点検を行います。そのほか、遊具点検の資格を持った業者による点検を年に1度行うことを検討しています。
スロープから屋根付きベンチにはいるところの段差を解消してもらいたい。	→	現状、支障はないと考えていますが、今後の状況に応じて対応を検討します。

ワークショップ参加者の感想(抜粋)

- ・公園への意見に対して、できないことはできない、できるものは前向きに検討してもらったのでモヤモヤした感情が無く進めていくことができた。
- ・市民の意見を取り入れたので、満足度の高い整備になったと思う。公園に限らず市民の声を取り入れてもらいたい。
- ・ふだんから子どもと関わることもあるので、障害のある子どものことを意識していたつもりであったが、ほかの方の意見を聞くことでわかったこともあった。自分自身の学びにもなった。
- ・公立保育園では障害のある子どもを預かることは少ないが、これからは共存共栄について考えていかなければと思った。実際に遊具で遊んで、楽しかったという声が多かった。今後も安全に楽しく使ってもらえるようにしてほしい。
- ・公園は子どもにとって学びの場。～してはいけない、ではなく、～しましょうのほうが子どもは認識しやすい。マナーの発信をしてほしい。
- ・意見が反映された公園ができて、思い入れのある公園になった。異なる障害のこともわかったので自分自身の学びにもなった。
- ・全国的にインクルーシブ遊具が広まりつつあるが、遊具の設置は高額だと聞いた。ほかの場所にも一つだけでも整備されるといいなと思っているので、今後の整備にも期待したい。
- ・障害にはいろいろな種類があり、どういった障害があるかによって、見えてくるのが異なる。異なるタイプの子どもが一つの公園で遊べることができうれしい。健常児や大人としても、障害のある子どもと接する機会は少ない。公園こそいろいろな子が触れ合う場だと思うので、市内に日野中央公園のような公園がたくさんできたらいいと思う。

整備内容の紹介



看板

だれもが遊べる遊具であるインクルーシブ遊具の説明を設置しました。



縁台タイプのベンチ

荷物を置いたり、グループで座ったり、いろいろな使い方ができます。



屋根付きベンチ

日差しよけや雨の日に。屋根の下には縁台タイプのベンチがあります。



排水ますの蓋

ベビーカーなどのタイヤがはまってしまうサイズの穴のものから、細かい網目タイプの蓋に交換しました。



案内看板

公園内の要所に、公園施設や周辺施設の場所を示す看板を設置しました。



バリアフリータイプ水飲み器

ひねりやすいレバータイプ
車いすでも使えるように水飲みの下にスペースがあります。

6回のワークショップを終えて 緑と清流課より

当初は、今までの公園設計の経験をもとに緑と清流課だけで整備内容を考えていました。しかし、全6回のワークショップのなかで、自分たちでは考えていなかったような内容のご意見をいただいて、整備内容に取り入れることができました。その結果、現在インクルーシブ遊具広場は大盛況で、多くの子どもたち(時々おとなも)が楽しそうに遊んでいるところを見かけます。ワークショップの皆様のおかげで大人気の公園になったと思います。日野中央公園の整備をきっかけに、今後もインクルーシブな公園整備を進めて行きたいと考えています。

公園整備ワークショップ・日野中央公園ワークショップだよりについて日野市HPでも紹介しています。

1回目



2回目



3回目



4回目



5回目



6回目



ワークショップだよりVOL.1

